

事例 2 新しい表現方法を十分に試したり共有したりすることで、知識及び技能の育成をねらった事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 絵に表す活動
- 事例のポイント

- ① 新しい表現方法を十分に試すことで、様々な表現方法を思い付くようにする。
- ② 自然と友人の活動や作品に目が向くような場の設定をする。
- ③ ICT端末を用いて、学習を振り返り、共有する。

1 題材名 「絵のぐを『スーッ』とのぼしたら」

【第2学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ絵に表す活動

2 題材について

(1) 児童の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、ヘラでのぼした絵の具の形や色から感じたことや想像したことを基に表したいことを見付け、工夫して表す学習である。絵の具を、ヘラを使って画用紙に薄くのぼしていくことで下にある色が透けて見えたり、隣の色との境目がはっきり見えたりと、筆でかく時とは違った色の感じが現れてくる。また、絵の具をヘラでのぼす行為は筆でかくことに比べて偶然性の度合いが高くなり、思いがけない形や色が現れてくる。様々なのぼし方や置き方を試す中で、生まれた形や色の面白さや美しさから感じたこと、想像したことをきっかけとし、そこから自分の表したいことを見付け、広げ、実現していく学習活動を通して、児童の資質・能力の育成を図っていく。

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア、イで示す。)

(1) 題材の目標

- ・絵の具をヘラでのぼしたときの感覚や行為を通して、形や色などに気付く。
- ・絵の具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、いろいろなのぼし方を試したり組み合わせたりしながら表したいことを基に表し方を工夫して表す。 (知識及び技能)
- ・ヘラでのぼした絵の具の形や色などから感じたことや考えたことを基に、表したいことを見付け、画用紙や絵の具の色などを選んだり、絵の具をのぼした感じを生かしたりしながら、どのように表すかについて考える。
- ・絵の具をヘラでのぼしてできた形や色を基に、自分のイメージをもつ。
- ・自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・楽しく絵の具をのぼし、そこからもったイメージを基に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 <u>絵の具をヘラでのぼしたときの感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。</u>	発 <u>ヘラでのぼした絵の具の形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、画用紙や絵の具の色などを選んだり、絵の具をのぼした感じを生かしたりしながら、どのように表すかについて考えている。</u>	態 <u>つくりだす喜びを味わい、楽しく絵の具をのぼして絵に表したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</u>
技 <u>絵の具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、いろいろなのぼし方を試したり組み合わせたりしながら表したいことを基に表し方を工夫して表している。</u>	鑑 <u>ヘラでのぼした絵の具の形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</u>	

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準 (例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画（全4時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具をヘラで画用紙にのばす。 絵の具をのばしてできた形や色などに気付く。 絵の具に十分に慣れる。 	◎ 観察 対話 記述	◎ 観察 対話				<p>1時間目の「知識・技能（技能）」は、ヘラで絵の具をのばす活動を通して、絵の具に十分に慣れているかという視点で評価していく。</p> <p>3時間目の「知識・技能（技能）」は、表したいことに合わせて、表し方を工夫しているかという視点で評価していく。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具をのばしてできた形や色などからイメージをもつ。 絵の具をのばしてできた形や色などから感じたことや考えたことを基に、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 			◎ 観察 対話 作品			
3	<ul style="list-style-type: none"> さらに絵の具をのばしたり、様々な材料を使ったりしながら、表したいことに合わせて工夫して表す。 		◎ 観察 対話 作品	○			
4	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品を見合っ、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。 				◎ 観察 対話 作品 記述		

5 本時の学習（本時 1 / 4 時）

- (1) 目標 ・ 絵の具をへらでのぼしたときの間隔や行為を通して、形や色などに気付く。
 ・ 絵の具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、いろいろなのぼし方を試したり組み合わせたりする。 〈知識及び技能〉
- (2) 準備
 ○教師：共用絵の具、へら、ケント紙、色画用紙、新聞紙、ICT端末
 ○児童：ぞうきん
- (3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿（「 」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 7分	<p style="text-align: center;">提案 えのぐをへらでのぼしてみよう。</p> <p>1 教師の示範を見て、へらを使うかき方を理解する。</p> <p>2 どののぼし方ができそうか出し合う。「くねくねの線もかいてみたいな。」 「虹みたいに曲がった線をかいてみたいな。」 「かいた線の上から重ねていったらどうなるかな。」</p>	<p>○実際にやって見せることで、児童の「やってみたい」という思いを引き出すようにする。</p> <p>○絵の具の置き方やのぼし方を確認する。</p> <p>○画用紙は1人2枚使ってよいことを伝える。</p> <p>○まっすぐな線だけでなく、曲がった線や丸い形、交わった線など様々な表現ができることを共有することで、工夫して表現する意欲を引き出す。</p> <p>○活動に夢中になるあまり、形や色に注目することを忘れないように、自分がいいなと思う形や色をつくっていくよう助言する。〔共〕</p>	<p>【知・技】かいた線の形や色に気付き、表現につなげている。 （表現・行動観察・対話） ◎かいた線の形や色の重なりやその変化などの面白さに気付き、よりよい表現につなげている。</p> <p>◆へらでのぼした形や色などに気付いておらず、表現につながっていない児童には、何色の絵の具を使おうか、など形や色などを視点に問いかける。</p>
展開 31分	<p>3 へらをつかっていろいろな方法を工夫しながらかく。</p> <p>「新幹線みたいな線ができたよ。窓をかきたしてみようかな。」 「上から重ねて線を引いたら、下の絵の具の色が透けてきれいだな。」 「へらに残った絵の具を点々と付けてみたよ。」 「画用紙を回してかいたら丸い線ができた。」</p>	<p>○自分がかいた線の形や色に注目している児童のつぶやきを拾ったり共感したりする。〔共〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>事例のポイント① 画用紙や絵の具の色を選択したり、のぼし方を試したりすることを通して、のぼした絵の具の形や色などを捉え、自分のイメージをもちながら繰り返し表現していくことができるようにする。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>児童がのぼし方を試す場面</p> </div>	<p style="text-align: center;">編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p> <p>【知・技】絵の具に十分に慣れ、表したいことに合わせて、へらの動かし方や色の組み合わせ方を工夫している。 （表現・行動観察・対話） ◎絵の具に十分に慣れ、表したいことに合わせて、へらの動かし方や色の組み合わせ方など</p>

 <p>児童が作品を吊るす場面</p> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p>	<p>○かきかたを工夫している児童の活動に対して価値づける声かけをする。</p> <p>○思う通りにかけなくても、その形や色によさに注目できるように声をかけたり、付け足していくことを薦めたりしていくことで、児童が新しい価値を見付けていけるようにしていく。</p> <p>○かいた画用紙は図工室に吊るしておくようにする。</p> <p>事例のポイント② 自分の作品を教室に吊るして乾燥させることで自然と友人の作品に目が向いたり、会話が生まれたりすることで、新たな発想や構想、技能の手掛かりを得ることができるようにする。</p> <p>○児童の考えを聞いたり、表現の工夫を称賛したりして、児童が自信をもって楽しく活動ができるようにする。</p>	<p>新しい表現を積極的に試して工夫している。</p> <p>◆同じのぼし方や色を繰り返していて、表現の広がりがない児童には、友人の活動を参考にすることで、様々なのぼし方や、色の組み合わせ方を試してみるように声をかける。</p> <p>【能】 つくりだす喜びを味わい、楽しく絵の具をのぼして絵に表す学習活動に取り組もうとしている。 (表現・行動観察・対話)</p> <p>【指導に生かす評価】 友人の活動に目を向け、自分の活動に生かしたり、様々な方法を試したりしている児童の学習状況を把握し、指導に生かした。</p>
<p>整理 7 分</p> <p>4 1人1台端末で今日つくった作品を写真で撮影し、形や色などについて気付いたことやどのようなのぼし方をしたのかを書き、活動の振り返りを行う。「画用紙をくるくる回してかいたらカラフルな丸がかけました。」「白く透けている感じがする。クラゲみたいだと思った。」</p> <p>5 次時の流れを確認する。「今度はクレヨンで自分や友達をかきたしたいな。」</p>	<p>○第1時、第3時の終わりに作成途中の作品を1人1台端末で写真を撮影しておくことで自分の表現の変化を振り返ることができるようにする。(eポートフォリオ)</p> <p>○撮影した写真を共有することで、友人の表現の面白さや楽しさに気付くことができるようにする。</p> <p>事例のポイント③ 自分の作品を1人1台端末で撮影し、今日の目標に対する振り返りをすると共に、友人の作品やコメントも見合えるようにする。</p> <p>○次回以降の、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	 <p>形や色などについて気づいたことをコメントに書きましょう。</p> <p>児童が撮影した作品</p>

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、
 発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、
 態=「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

- (1) 在籍児童数 37 名
- (2) 場の設定

新しい画用紙(材料)を図工室の中心に置いたり、できあがった作品は図工室に吊るしたりしておくことで、児童が移動する途中に自然と友人の作品に目が向くようにする。